

### (3) 人間関係づくり

日々の学校生活ですべての子どもがお互いの違いを認め、支え合うために必要な人間関係力やコミュニケーション力の育成を目的としたプログラム

#### 学習活動例 一覧

	ねらい	活動名	活動の概要
低学年	コミュニケーションを行ううえで、自分のことを話すだけでなく、相手の話をしっかり聞くことができる力を育む。	よいところさがし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちのよいところを「よいところカード」に記入する。</li> <li>・友だちにカードを自分の気持ちを付け加えて渡す。</li> </ul>
		わたしはよい友だち？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート「わたしはよい友だち」に記入する。</li> <li>・ワークシートに記入したことで気づいたことを話し合う。</li> <li>・よい友だちとは何かについて発表する。</li> </ul>
中学年	コミュニケーションを行ううえで、言葉だけでなく、相手の行動や、表情をよく見たりよく聞いたりして、相手が話したいことを知ろうとする力を育む。	うまく伝わったかな？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯ゲーム機を介して友だちとやり取りをした題材「うまく伝わったかな」の映像を視聴して話し合う。</li> <li>・登場人物が相手にした行動について考える。</li> <li>・人とのかかわり方について大切なことは何かを話し合う。</li> </ul>
		友だちにインタビューしたことを紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちにインタビューし、分かったことを他の友だちに紹介する。</li> <li>・紹介をして感じたことを発表しあう。</li> </ul>
高学年	コミュニケーションを図ることで、互いに意思や感情、思考を伝え合うことや、新たな考えを深めたりできることを理解させる。	気持ちのよい言葉づかいを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された問題場面から、三つの対応の仕方があることを知る。</li> <li>・「主体的」な対応の仕方での解決を確認し、次に示した問題場面での対応の仕方を考える。</li> <li>・今後、どのような言葉づかいをするかシートに記入する。</li> </ul>
		いじめをなくすために必要なことについて話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果について気づいたことを発表する</li> <li>・ピラミッドチャートを用いて、いじめをなくすために必要なことをグループで話し合う。</li> <li>・いじめをなくすために自分ができることを考える。</li> </ul>
中学校	コミュニケーションにおいては、互いに意思や感情、思考を伝え合うことが大切であることを理解させる。	話の聴き方について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな聴き方をすると相手が嫌な気持ちになるか考える。</li> <li>・自分が嫌な気持ちになる聴き方をしていないか振り返る。</li> <li>・友だちが話しているときの聴き方について考える。</li> <li>・自分のこれからの聴き方についてできることを確認する。</li> </ul>
		一人一人が大切にされた学級にするためにできることを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『高知家』やさしさいっぱい子ども宣言」を読み、学級ができていくことと自己とのかかわりについて考える。</li> <li>・グループで一人一人を大切にする学級をつくるために必要なことについて話し合う。</li> <li>・グループで考えたことから自分ができることを考える。</li> </ul>
高等学校	コミュニケーションにおいて、言葉や感情表現によって相手への意思の伝わり方が異なることを理解させるとともに、相手を考えた適切な言葉や表現を使っていこうとする態度を育てる。	みんなのいいところを探そう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループメンバーのいいところを見つける。</li> <li>・カードの交換をする。</li> <li>・いいところを伝えてもらいどのように感じたか発表する。</li> </ul>
		ハードな怒りをソフトに変身させよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りを感じたときの対処のNGパターンは何か確認する。</li> <li>・AとBの関係がハッピーエンドになるシナリオを考える。</li> <li>・怒りの静め方について理解し、自分の怒りの静め方を決めて実践する。</li> </ul>
特別支援学校	自分の気持ちを正しく伝えるとともに、相手の気持ちを考え、適切な言葉がけについて理解する。	相手の気持ちを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情のイラストを見て、どんな気持ちか考える。</li> <li>・食器を落としてしまった友だちを例に、どんな言葉がけをするかグループで話し合う。</li> </ul>

◆学習のねらい	互いの良さを認め合いながら、自分の良さを実感し、自分も友だちも大切にすることを育てる。
◆評価	友だちのよいところを見つけたり、友だちを大切にしている行動をしたりしている。
◆教育課程への位置づけ	特別活動や生活、帰りの会等で子ども同士の関係づくりに活用できる

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 友だちにしてもらってうれしかったことや友だちのことで感心したこと等について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活の中で、友だちにもらった場面を思い出したり、自分や学級で立てた目標に向かって頑張っている友だちに気付いたりできるように声かけをする。</li> <li>・ 出てきた意見は、全て短冊黒板に書く。</li> </ul>
展開	2 出た意見を参考にグループ内の友だちに渡す「よいところカード」を記入する。(全員分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段の関わりの中で、あまり意識していなかった友だちのよいところに目を向け、伝えることを意識させる声かけをする。</li> </ul>
	<p>(カード例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困っている友だちに声をかけている。</li> <li>・ 「あそぼう」と声をかけてさそってくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を一生けんめい取り組んでいる</li> <li>・ 自分の係をきちんとしている。</li> </ul>
展開	3 カードの渡し方を確認し、グループの友だちにカードを渡す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手の名前や自分の気持ちを付け加え、相手の方をしっかりと見ながら伝えることの大切さに気づけるよう、カードの渡し方の手本を教師が示す。</li> <li>・ 相互の認め合いを感じることができるよう、カードを受け取る時に話している相手を大切にし、よいところを伝えてくれた友だちに「ありがとう」の気持ちを伝えるように声かけをする。</li> </ul>
	<p>(進め方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの机の上にカードを並べる。</li> <li>・ 隣に座っている友だちに渡したいカードを選び、その友だちに渡す。</li> <li>・ カードを渡す時は、カードを読み上げるだけでなく、相手の名前や「うれしかったです」等自分の気持ちも付け加える。</li> <li>・ 交代して繰り返す。</li> <li>・ グループの別の友だちと話す。</li> </ul>	
まとめ	4 感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちからよいところを言われてうれしかった。</li> <li>・ 友だちのよいところを見つけたらもっと友だちを大切にしようと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いのよさを伝え合うことができた喜びを共有できるようにする。</li> <li>・ お互いを認め合うことが、自分だけでなく、友だちを大切にすることにつながることを伝える。</li> </ul>

◆学習のねらい	自分が友だちからしてほしいことや友だちにしていることを振り返り、見直すことによって、友だちとのよりよいかかわり方について考えさせる。
◆評価	友だちとのよりよいかかわり方に気づき、友だちを大切にする行動をしている。
◆教育課程への位置づけ	特別活動や生活、帰りの会等で子ども同士の関係づくりに活用できる。

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 友だちのことについて考えよう。 ・いっしょに遊ぶ人 ・困ったときに励ましてくれる ・たくさんいると楽しい	・学校生活の中で、友だちは身近な大切な存在であることに目を向けさせる。
展開	2 自分と友だちとのかかわり方について考える。 ○ワークシート「わたしはよい友だち？」に記入する。 ・「友だちからしてもらったらうれしいことには○が多いのに、自分がしたことは少ないな。  3 気づいたことを話し合う。 ・友だちからしてもらいたいことを先に友だちにしようという気持ちをもつのが大切なかもしれない。  ・人によってしてもらいたいことは違うかもしれない。相手の気持ちを考えることも必要だと思う。	・ワークシートを各自1枚配布する。 ・してもらいたいことだけでなく、自からしているか、自分の行動を振り返りながら記入させる。  ・友だちから何かしてもらうことを中心に考えるのではなく、相手の気持ちに寄り添いながら、自分から行動を起こすことがよりよい関係につながることを伝える。
まとめ	4 感想を発表する。 ・よい友だちとは何かに気付くことができた。 ・友だちにしてもらいうれしかったことを自からしたい。	・一人一人の友だちとのかかわりを考えることが、学級の人間関係を豊かにすることにつながることを伝える。

※「わたしはよい友だち？（ワークシート）」人権教育課HPに掲載

◆学習のねらい	人との関わりで大切なことについて考え、相手の状況や気持ちを想像することの大切さに気づき、相手の気持ちを考えた行動をしようとする態度を育てる。
◆評価	人との関わりの基本にあるのは思いやりであることに気づき、相手の状況や気持ちを想像することを大切にしている。
◆教育課程への位置付け	特別の教科 道徳 【親切、思いやり】 小学校 中B（6）

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 携帯ゲーム機の通信機能や SNS 等で文字やスタンプだけのやりとりだとどのようになるのか考える。	・携帯ゲーム機の通信機能や SNS 等で困ったことを見聞きしたことはあるかたずねる。
展開	2 教材「うまく伝わったかな」の映像を視聴して話し合う。  3 人との関わりの上で大切なことは何かについて話し合う。	・なぜ、お互いに怒りのスタンプを送り合ったか、それぞれの気持ちを考えることで状況を整理させる。  ・次の日、学校でかずやさんの態度を見たひろしさんの気持ちを考えることでトラブルに陥ってしまったことを把握させる。  ・もし、同じ場所で顔の見える状態でゲームをしていたら、違っていたのかということも投げかけ、声や表情等相手の状況を判断する情報が乏しく、相手の意図が理解できない状況を明確にした上で考えさせる。
まとめ	4 教師の説話を聞く。 ・相手の気持ちや状況について考える。	・短いメッセージから生まれる誤解について紹介する。（短い文章で誤解が生まれた事例、入力ミスで違う意味になってしまった事例※）

《板書例》

○この資料は、人とコミュニケーションについて、どんなことを教えてくれているのだろうか。

ひろし

・うまく気持ちを伝えるためには、誤解のない表現に心がける。  
・相手の気持ちを考えながらやりとりする。  
・意味が分からなかったら、直接話す。

・わけが分からないけど、一方的に怒りのスタンプが送られてきたから、仕返しした。  
・送られてきた怒りのスタンプに頭にきた。

かずや

・アイテムを使うひろしに頭にきた。

うまく伝わったかな

※「短い文章で誤解が生まれた事例（参考資料）」 人権教育課HPに掲載

◆学習のねらい	コミュニケーションを行う上では、言葉だけでなく相手の行動や表情をよく見たり聞いたりして、相手が話したいことを知ろうとすることも大切であることを理解させる。
◆評価	相手の気持ちを伝えるにはどうしたらよいかを考えながら話し合う活動を通して、話を聞く態度や方法について理解している。
◆教育課程への位置付け	帰りの会等で子ども同士の関係づくりに活用できる。

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 インタビューを通して、友だちを紹介する学習であることを知る。 ・友だちが興味をもっていることを聞きたい。 ・友だちの得意なことって何だろう。	・難しく捉えないよう自分が印象に残ったことを紹介したらよいことを伝える。 ・自分の知ってもらいたいことを友だちに聞くようにしたらよいことを伝える。
	インタビューをして友だちの分かったことを伝えよう	
展開	2 インタビューをする。 (1) ペアの人と順番に相手の好きなこと、宝物等についてインタビューした内容をワークシート※にメモをする。 (2) インタビューを受けたときにどのように話を聞いてもらうとうれしかったかを発表する。 ・うなずいて聞いてくれた。 ・にこにこしてくれた。 ・楽しそうに聞いてくれた。 3 他者紹介をする。 近くのペアと4人グループになり、インタビュー内容を2人に紹介をする。 4 他者紹介をして感じたことをグループで発表する。	・答えられないものや答えたくないものについては答えなくてよいこととする。 ・インタビューのときは相手が話しやすいように聞くことを意識するよう伝える。 ・友だちの聞き方でよい点を全体で確認する。  ・よい聞き方を意識するよう伝える。  ・自信を持って話せない人に対して温かく受け入れるよう伝える。
まとめ	5 友だちが話しているときの聴き方を振り返る。 ・友だちと同じようにうなずいて聞くことにしよう。	・どのような聞き方だとうれしかったか、聞くときに気をつけたことを書くようにする。

《板書例》

<p>○よい聞き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなずいて聞いてくれた。</li> <li>・ニコニコして聞いてくれた。</li> <li>・楽しそうに聞いてくれた。</li> </ul>	<p>○インタビューのやり方</p> <p>○ペアになった人と順番に、あいでの好きなこと、好きなもの、たからものなどについてインタビューして、さらに聞きたいことはくわしく聞くようにする</p>	<p>○友だちに聞いてみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今、きょうみをもっていること</li> <li>・とくいなこと</li> </ul>	<p>友だちのインタビューから分かったことを紹介しよう</p>
<p>○友だちのことを紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちのことを紹介することにきんちょうした。</li> <li>・みんなが一生懸命聞いてくれた</li> <li>・自分のことを紹介してくれてうれしかった</li> </ul>	<p>○学習の振り返り</p> <p>友だちが話しているときの聴き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと同じようにうなずいてきくようにしたい。</li> </ul>		

※「インタビューシート（参考資料）」、「コミュニケーション能力のとらえ方とその育成」

人権教育課HPに掲載

◆学習のねらい	相手の気持ちを大切に、自分の思いや考えを適切に伝えることができるようになる。
◆評価	お互いにとって気持ちのよい言葉づかいについて考え、判断し、実践している。
◆教育課程への位置づけ	特別活動 学級活動「(2)イよりよい人間関係の形成」

《事前の活動》

活動の内容	指導上の留意点
言葉づかいについてのアンケート調査をする。	学級で起こった言葉のトラブルを取りあげ、問題意識を高めておく。 ・言葉づかいは大切だと思いますか？ ・言葉づかいに気を付けていますか？

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 「気持ちのよい言葉づかい」とはどのような言葉づかいなのか考える。	・これまでの経験等をもとに自由に発表させ、言葉の大切さを理解しても、実際に行動することの難しさを共感させる。
展開	2 ある問題場면을提示し、三つの対応の仕方を知る。 「きのう、用事で帰るのが遅くなって算数プリントやらないがって。答え見せてくれん？」	・三通りの対応を児童とロールプレイをし、どの対応が望ましいか考えるようにする。  受身的「仕方ないなあ。うん、いいよ。」 攻撃的「自分勝手にわがままやね。そんなずいこと私いやや。」 主体的「宿題は自分でやらんと意味がないろう。先生に報告してから休み時間にがんばっ
	3 どの対応の仕方がよいのかを話し合い考える。 いっしょに遊ぶ約束していたあなたと〇〇さん。ところが〇〇さんは、1時間もちこくして約束場所にやってきました。「△△さん、ごめん！待った？」	・「主体的」な対応の仕方での解決を確認する。 ・話し合いをもとに個人思考をさせることで、一人一人に意見をもたせる。
	4 話し合ったことを発表し合い、どんな言葉づかいがよいか考える。	・お互いにとって気持ちのよい言葉づかいになっているか検討する。 ・ロールプレイを通して感じたことを引き出し、より円満な解決につながるよう話し合いを深める。
まとめ	5 これからどのような言葉づかいをするのか、自己目標シートに記入する。	・個別に指導したり、助言したりする。

《事後の活動》

活動の内容	指導上の留意点
・自己目標シートの振り返りをする。 ・授業後、気を付けていることや意識していることを確認し合う。	・頑張りを認め合う等、相互評価しながら、実践が継続していけるよう声かけをする。 ・よかった事例をとりあげ、担任の気付きや感想を伝える。

※「気持ちのよい言葉づかいを考えよう（ワークシート）」

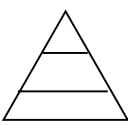
人権教育課HPに掲載

◆学習のねらい	互いに思いを伝えることで、新たな考えに気づいたり、考えを深めたりして自分ができることを見つけることができるようにする。
◆評価	自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで、自分ができることを見つけ、取り組んでいる。
◆教育課程への位置付け	特別活動 学級活動「(2)イ よりよい人間関係の形成」等

《事前の活動》

活動の内容	指導上の留意点
いじめをなくすために必要なことは何かについて学年や学校全体に対してアンケート調査をする。	・アンケート後集計をし、上位8つの項目を選んでおく。 ・アンケートを通して、いじめをなくすためにできることは何かを伝え、問題意識を高めておく。

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 アンケート結果から得られた上位8つの項目について気づいたことを発表する。	・学級や学年で考えた内容でありどれも大切な内容であることを押さえる。
	2. ピラミッド・チャートのやり方について知る。	・黒板にルールを掲示する。
	<p><b>【ピラミッド・チャート】・グループでそれぞれの考えを高め、まとめていく 思考ツールの一つ</b></p> <p>①上位8つの項目をグループに配付した付箋紙に記入し、ピラミッドの形の図の下の部分に全て貼る。 ②グループで話し合い、大事なものを選び、中央の段に貼る。 ③中央に貼られた付箋紙について話し合い、グループとして大事だと選んだ付箋紙を一番上の段に貼る。 ④一番上の段に貼った付箋紙について、選んだ理由について発表できるように用意しておく。</p> 	
	3 グループで「いじめをなくすために必要なこと」についてピラミッド・チャートを行う。	・順位付けの根拠を説明するよう伝える。 ・「他の人の考えを批判しない」「じゃんけんや多数決ではなくメンバーの合意の下に決める」ことを約束することを伝える。
まとめ	4 グループごとに、ピラミッドの頂点に立った主張とその理由を発表する。	・他グループの主張や理由を自グループと比べながら聞くように伝える。 ・自分たちの主張と同じところや違うところに注目するよう助言する。
	5 「高知家」やさしさいっぱい 子ども宣言の4つの宣言を確認し、各グループが考えたことの重なりや違うことについて話し合う。	・宣言文の内容と重なりがあれば、同じことが宣言文になっていること、違いがあれば、クラスが大切にすることとして捉えたものであることとして価値付ける。
	6 各班の発表を聞いて、これから「いじめをなくすために自分ができること」を自己目標シートに記入する。	・継続して取り組めることを記入する。 ・グループで話し合い、一番上になったものを教室に掲示することを伝える。

《事後の活動》

活動の内容	指導上の留意点
・自己目標シートの振り返りをする。 ・授業後、気をつけていることや意識していることを確認し合う。	・頑張りを認め合う等、相互評価しながら、実践が継続していけるよう声かけをする。 ・よかった取組をとりあげ、担任の気付きや感想を伝える。

《板書例》

グループが考えたことと宣言文の重なりについて知る

- ・相手の話をしっかりと聞くこと。
- ・一人も欠かさずみんな楽しんで楽しむこと

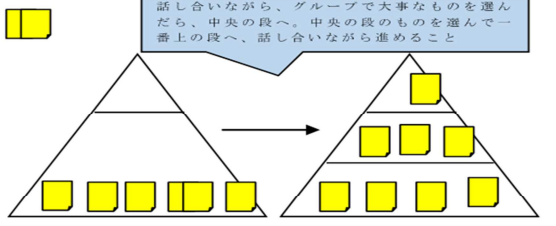
○グループが考えた「いじめをなくすために必要なこと」の一番上にあたる項目

- ・あいさつをすること
- ・相手の話をしっかりと聞くこと。
- ・一人も欠かさずみんな楽しんで楽しむこと

「あいさつは「知ろう」につながる。  
・相手の話を聞くことは「知ろう」や「関わろう」につながる。

**【ピラミッド・チャートについて】**

①上位8つの項目をグループに配付した付箋紙に記入し、ピラミッドの形の図の下の部分に全て貼る。  
②グループで話し合い、大事なものを選び、中央の段に貼る。  
③中央に貼られた付箋紙について話し合い、グループとして大事だと選んだ付箋紙を一番上の段にはる。



話し合いながら、グループで大事なものを選んで、中央の段へ、中央の段のものを選んで一番上の段へ、話し合いながら進めること

いじめをなくすために必要なことについて考えよう。

◆学習のねらい	相手の気持ちを尊重した話の聞き方の大切さに気付き、自分の聞き方を見直すことができるようにする。
◆評価	相手の気持ちを大切にしたい聞き方を知り、相手との会話に生かそうとしている。
◆教育課程への位置付け	学級活動 総合的な学習 帰りの会等

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 本時のめあてを確認する。 ○ 相手の気持ちを大切にしたい、話の聞き方について考えていこう。	・ 軽い日常会話と悩み事の相談や真剣な話のときとの区別をつける必要があることに意識させるようにする。
展開	2 どんな話の聴き方をすると相手がいやな気持ちになるかを考える。 ○ 自分が真剣な話をしているとき、相手がワークシートのような聞き方をしたらどんな気持ちになるか想像しよう。「問1」  ○ 自分もやってしまったことがあるか、振り返ってみよう。「問2」  ○ ワークシートに書いたことをグループで伝え合う。  3 友だちが真剣な話や悩みを話してきたときの聴き方について考える。「問3」 (最後まで・冷やかさないで・じっくりと)	・ ワークシート※を配付する。  ・ ワークシートに書かれているようすを想像しながら書くようにする。  ・ プライバシー保護のため、実名は避けて内容も特定されないようにぼかして伝え合うようにする。  ・ 話題に応じ聴き方を切り替えることの大切さに気付くようにする。 ・ どんな態度であれば(最後まで・冷やかさないで・じっくりと)と思ってもらえるかを考えるようにする。
まとめ	4 これからできることの確認をする。 ・ 気持ちの切りかえと聴き方に注意することを確認する。 ・ 自分で解決できないものは大人に相談することも伝える。	・ グループで考えたことをやっていくことが友だちを大切にしたい行動であることを押さえる。

※「友だちの話の聞き方(ワークシート)」 人権教育課HPに掲載



◆学習のねらい	一人一人が大切にされる学級をつくるために必要なことを考え、自ら進んで取り組むことができるようにする。
◆評価	よりよい学級にするために自分ができることを考え、取り組んでいる。
◆教育課程への位置付け	特別活動 学級活動「(2)イ よりよい人間関係の形成」

《事前の活動》

活動の内容	指導上の留意点
一人一人が大切にされる学級とはどんな学級かアンケートをする。	学級内で友だちとの関わりでよかったと思う場面を見つけるように声かけをし、よい関わりを意識させる。

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 アンケート結果で気づいたことを発表する。 2 望ましい人間関係をつくるために学級でできていることとできていないことを考える。	・現在の学級で何が課題かを確認し、よりよくするために意見を出し合うことを確認する。 ・できていないことを話すことも学級のことを考えた発言であることを理解させる。
展開	3 「『高知家』やさしさいっぱい子ども宣言」※を読み、学級でできている学級と自己とのかかわりについて考える。 ・友だちのよいところを見つけて評価し合っているから「認めよう」はできているんじゃないかな。 ・困ったことを言えていないところがあるから「話し合おう いかそう」ができていないかもしれない。 4 グループで一人一人を大切に作る学級をつくるために必要なことについて話し合う。 5 話し合ったことを全体に発表する。	・「『高知家』やさしさいっぱい子ども宣言」(ポスターやリーフレット『平成30年3月配付』)を配付する。 ・4つの宣言のできている、できていないところについて考えるように促す。 ・学級を高める取組には、自分の姿勢等が大切であることに気付くようにする。 ・シェアリングをして、一人一人がめあてを立てるときに、参考にできるようにする。
まとめ	6 自分がやろうと思うことを考え、紹介する。	・一人一人を大切に作る学級づくりに向けて、自分がこれからやろうと思うことをワークシート※に記入し、グループ内で紹介し合う。

《事後の活動》

活動の内容	指導上の留意点
・自分の立てためあてや取組について振り返る。	・頑張りを認め合う等、相互評価しながら、実践が継続していけるよう声かけをする。

※「『高知家』やさしさいっぱい子ども宣言」「自己評価ワークシート」 人権教育課HPに掲載  
《その他の資料》  
リーフレット みんなでいじめのない笑顔あふれる「高知家」にしよう(平成30年3月配付)  
掲載ホームページ <http://www.pref.kochi.jg.jp/soshiki/310801/2018042000139.html>

◆学習のねらい	クラスの中で、よりよい人間関係を築いていくために、自分がクラスの中で、受容されている。クラスの一員であることを実感させ、お互いに肯定的な気持ちで学校生活を過ごせる態度を育てる。
◆評価	クラスメイトのよいところを見つけて伝えることができる。
◆教育課程への位置付け	ホームルーム活動

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 本時のねらいを理解する。 友人のよさや友人に助けてもらったことを見つめなおして、伝え合う。	・気になることや直してほしいことを見つけて「あの人はこんな人だ」と思い込まず、自分が知っているその人のよさを見つけてほしいことを伝える。
展開	2 グループをつくる。 ・5～6人で一つのグループ  3 クラスメイトのよいところを見つける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     あなたのいいところカード                      ( ) が思う                      ( ) のいいところは・・・                      ○                 </div> ・グループのメンバーに対してカードに三つ程度書く。  4 メンバーを一人ずつその人のよいところを伝えてカードを相手にプレゼントする。	・ねらいに適したグループになれるように工夫し、活動に移るようにする。  ・カードを必要枚数用意し、グループの一人が取りに来るように伝える。 ・グループの本人を除いた人数分の「○○さんのいいところカード」を一人一人に配る。  ・メンバーのよいところを書きづらい生徒には「言葉言い換えシート」を配付し、その人の特徴を置き換えた言葉を見つけ、よいところとして書かせるようにする。 ・真剣に取り組ませるようにする。  ・よいところを伝えた後に、「感心した」や「助かりました」等の自分の気持ちを付け加えるようにする。
まとめ	5 感想を書く。 感想をいくつか紹介する。	・よいところを伝えてもらい、どのように感じたか、新たに発見したことを感想を書くようにする。 ・活動を通しての授業者の感想を伝え、生徒が行った活動の価値付けをする。

※「言葉言い換えシート（参考資料）」 人権教育課HPに掲載

◆学習のねらい	自分の怒りのパターンに気付くとともに、怒りを感じたときによりよい対処の仕方について知り、実践しようとする意欲をもてるようにする。
◆評価	怒りを感じたときのよりよい対処の仕方について考え、実践しようとしている。
◆教育課程への位置付け	特別活動（ホームルーム活動）（2）オ「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」等

《事前の活動》

活動の内容	指導上の留意点
これまでを振り返り、怒りを感じたときに、どのように対処をしていたかをワークシートに書く。	怒りを感じたときの対処の仕方を振り返らせ、その時に解決したかも併せて振り返らせるようにする。

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 ワークシートの集計結果を確認する。 ・対処の仕方で多かった上位3つを確認する。  2 本時のテーマについて確認をする。 ・よりよい対処の仕方を考える前に、NGパターンの例について理解する。  <NGパターンの例> ①ひたすらがまん型…頭にきてもがまんする                      ②だれか聞いて型…友だち、家族、先生に言い付ける ③八つ当たり型…ものや違う人に八つ当たりすること              ④仕返し型…その場もしくは後で、仕返しをする ⑤一見シカト型…表面には出さず、心の底で恨み続ける	・ワークシートの集計結果を用意しておく。 ・対処の仕方の項目と割合だけを取り上げ、クラスの傾向として押さえる。  ・NGパターンのように返すと、なぜよくないかを生徒の意見からまとめるようにする。
	3 ワークシートの2コマ目以降をグループで考える。 ・1コマ目のロールプレイを代表班が演じる。 ・2コマ目以降は各班で役割を決めて4コマ目でハッピーエンドになるようにシナリオを作成する。 4 各班で作成したシナリオを発表する。 ・Aさん役とBさん役に体験してどうだったか感想を述べる。 ・各班の発表を聞いての感想を出し合う。  5 ロールプレイの体験や振り返りをもとに怒りを静めるコツについてまとめる。	・事前に1コマ目を演じる班を決めて練習をしておく。 ・2コマ目のAの怒りの静め方について、これまでの経験から効果的だったことを書き出すようにアドバイスをする。 ・ロールプレイの型にこだわらず、各班でできる発表の仕方でかまわないことを伝える。  ・CとDの役割から周囲のフォローの大切さについて伝える。また、いつもはそれを期待できないことも伝え、自分で落ち着くことが大切であることを理解させる。 ・発表の内容を生かしてコツをまとめる。
まとめ	6 今後のチャレンジを決める。 ・めあてを決めて、コツを使って怒りを静め、1週間チャレンジをする。	・自己決定したことを意識して、まずは1週間を目標に実践することを促す。

《事後の活動》

活動の内容	指導上の留意点
・取り組んだことをチャレンジカードに1週間記録する。 ・1週間後に振り返り、自分の努力や改善点を確認する。	・取り組んでいる様子を評価しながら実践が継続しているようにする。 ・自分の振り返りができていることを認めるとともに、クラスのよくなっている変化を評価する。

※「ハッピーエンドストーリー（ワークシート）」、「チャレンジカード」

◆学習のねらい	自分の気持ちを正しく伝えとともに、相手の気持ちを考え、ふわふわ言葉をかける。
◆評価	場面を理解して、相手の気持ちを考えとともに、ふわふわとした言葉をかけることができる。
◆教育課程への位置付け	自立活動

《展開例》

	学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめのあいさつをする。</li> <li>・前時の振り返りをする。</li> <li>・本時の学習を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちの切り替えができるような雰囲気を作る。</li> <li>・「コミュニケーション」「気持ち」がテーマであることを確認し、本時の内容を分かりやすくする。</li> <li>・掲示物（生徒の実態に応じてイラストや写真を入れる）を使い、生徒が注目しやすくする。</li> </ul>
展開	<p>1 気持ちについて考える。</p> <p>2 グループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の場面の中で、友だちがどのような気持ちになるのか考える。 「給食の食器を落としてしまった友だちにどんな言葉をかけますか？」</li> <li>・カードに記入する。</li> <li>・ワークシートに貼る。</li> </ul> <p>3 発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情のイラスト※を見せ、どんな気持ちであるのか考える場面を作る。</li> <li>・イライラしているとき、困っているとき、落ち込んでいるときに、ネガティブな言葉はネガティブが大きくなり、楽しいとき、うれしいときにポジティブな言葉はポジティブが大きくなることを伝える。</li> <li>・具体的な場面を通して一つひとつ丁寧に考えていく。</li> <li>・グループ内の関わりがもちやすいように1グループは6名程度にする。</li> <li>・「ふわふわことば」をかけることを伝える。</li> <li>・設問はできるだけ短い文章を使い、イラストを用いたりして、分かりやすくする。</li> <li>・書き込む早さが違うことに配慮する。早く書き終わった生徒には次のカードを渡す。時間を要する生徒はせかさず、ゆっくりと記入できる環境を作る。</li> <li>・グループが複数であるときは、それぞれのグループで発表し、いろいろな意見があることを知ることができるようにする。</li> <li>・発表は、復唱し、受け止めたことを伝える。また、意味が曖昧な場合は、言葉を置き換えて、その意図を確認する。</li> <li>・発表の中で出されたキーワードを拾い上げて大切なことをより深く考える。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをする。</li> <li>・おわりのあいさつをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りと次回の予告を行う。</li> </ul>

※「どんな気持ちか考えてみよう（表情のイラスト）」  
人権教育課HPに掲載

《知的障害・自閉症の子どもへの合理的配慮》

- ・具体的に繰り返し行う。
- ・視覚優位の生徒の対しては、視覚教材を活動し、より具体的な題材を取り上げる。
- ・自己肯定感を育むことで、自分や友だちを大切にし、そのために必要なスキルを学ぶことができるよう配慮する。
- ・集団参加が困難である、心理的な配慮が必要である等、個々の課題や行動の要因等には十分に配慮する。